

1. 鉄筋の最小かぶり厚さ

構造部分の種類		鉄筋の最小かぶり厚さ (mm)	最小配り厚さ	
土に接しない部分	床版、耐力壁	仕上げあり	20	
	以外の壁	仕上げなし	30	
	柱	屋内	仕上げあり	30
		屋外	仕上げなし	30
		耐力壁	仕上げあり	30
	耐力壁	屋外	仕上げなし	40
土に接する部分	柱、床、床版壁		+40	
	基礎、擁壁、耐圧床版		+60	
	煙突等高温を受ける部分		60	

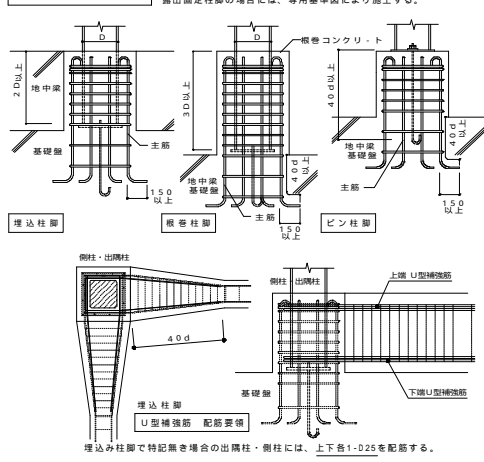
- (注) 1. \*印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は、特記による。  
2. '仕上げあり'とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、仕上げ材、灰付け又は塗装等の鉄筋の耐久上有効でない仕上げのものを除く。  
3. 床版、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さは含まない。  
4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭天端からとする。  
5. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久上不利な箇所には、適用しない。

2. 鉄筋の継手・定着の長さ

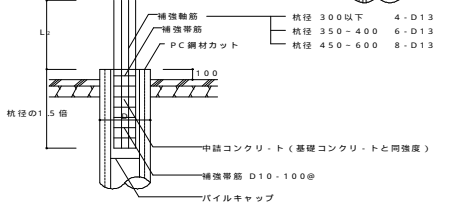
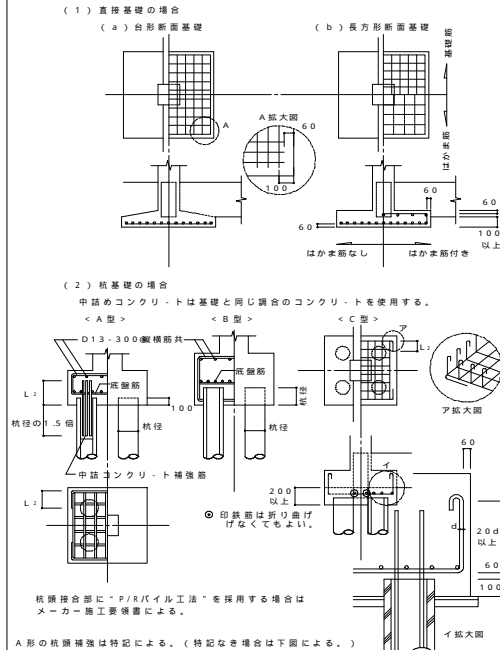
鉄筋の種類	設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )	F <sub>c</sub> 21N/mm <sup>2</sup> の場合					
		フックなし		フックあり		フックあり	
		L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>	L <sub>3</sub>	L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>	L <sub>3</sub>
SD295A	21 以上			10d			
SD295B	27 未満			150			
SD345	40d	35d	25d	10d	30d	25d	15d
	21 以上			10d			
SD390	27 未満	45d	40d	150	35d	30d	15d

- (注) 1. L<sub>1</sub>: 継手並びに 2. 及び 3. 以外の定着長さ。  
2. L<sub>2</sub>: 鉄筋端部のそれぞれの引当りへの定着長さ。  
3. L<sub>3</sub>: 小梁及び床版の下層筋の定着長さ。但し、基礎耐圧版、これを受ける小梁を除く。  
4. コンクリート設計基準強度 (F<sub>c</sub>) が 18N/mm<sup>2</sup> の場合 L<sub>1</sub> 及び L<sub>2</sub> は上表の値に 5d を加えたものとし、L<sub>3</sub> は上表の値とする。

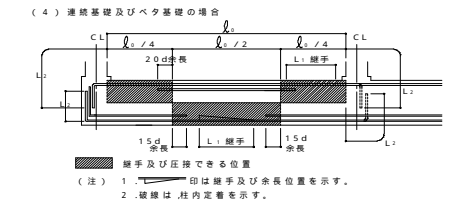
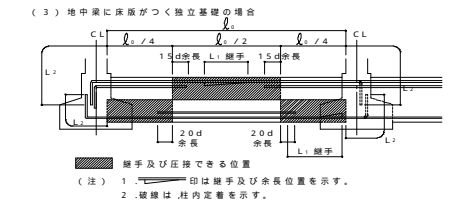
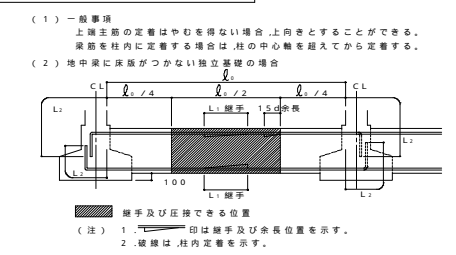
3. 柱脚工法



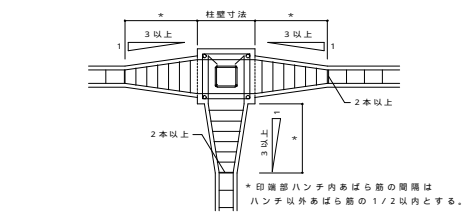
4. 基礎の配筋



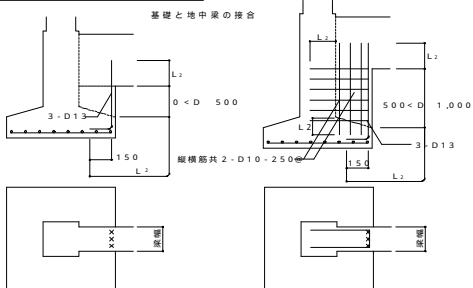
5. 地中梁筋の継手及び定着



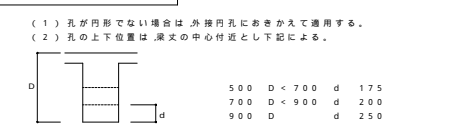
6. 地中梁接合要領 (埋込柱脚の場合)



7. 基礎接合部の補強



8. 梁貫通孔の補強



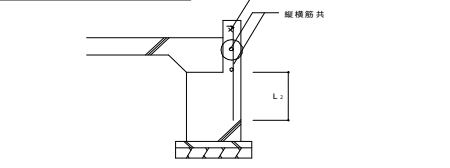
- (3) 孔の中心位置は柱及び直交する梁 (小梁) の面から 1.2D 以上離すことを原則とする。  
(4) 孔の直径は梁の 1/3 以下とし、また孔が連続する場合は、その中心間隔を孔径の平均値の 3 倍以上とする。  
(5) 補強筋の配置は、原則として主筋の内側とする。  
(6) 鉄筋の定着長さ。  
(7) 鉄筋の有効範囲及び定着長さのとり方

(7) 補強は下表による。 (H: D/3)

適用範囲	貫通孔補強筋	配筋図
50 < H < 100	斜め筋 2-2-D13 縦筋 2-2-D13 横筋 なし 上縦筋 なし 下縦筋 なし	多孔列列の場合は横筋 2-D13 を入れる。
100 < H < 200	斜め筋 4-2-D13 縦筋 2-2-D13 横筋 2-2-D13 上縦筋 3-2-D13 下縦筋 3-2-D13	
200 < H < 300	斜め筋 4-2-D19 縦筋 2-2-D13 横筋 2-2-D13 上縦筋 4-2-D13 下縦筋 4-2-D13	
300 < H < 400	斜め筋 4-2-D22 縦筋 4-2-D13 横筋 2-2-D16 上縦筋 6-2-D13 下縦筋 6-2-D13	

- \* 縦筋及び下縦筋は、あはら筋の形に配筋する。  
\* 孔の径が梁の 1/10 以下かつ 150mm を満たすものは、補強を省略することができる。

9. 立上げ壁配筋要領



10. 土間コンクリートの補強筋

